

魏 卓羚

WEI Zhuoling



メルヘンの世界

紙本着色

## メルヘンの世界

子どもでいられるのはたった 12 年くらいだ。あの時代には、子どもはなんでも素直に受け入れて、なんの制限もなく自由な発想を楽しんでいられる。大人になってあの頃のありがたみが分かった。この気持ちを持って過去に戻りたい。もし、あの頃に戻れるなら、自分だけのメルヘンチックな空間が欲しい。しかし、若返った時過去の記憶や経験は残っているかもしれない。だから、もう純真無垢で元気な自分には戻れないはずだ。

私はいつも「私はまだあの頃の子供だ」という幻想の中にいる。この幻想を創作する「メルヘンの世界」に託す。それは現実と繋がっている夢と現実が溶け合う安堵の「世界」だ。メルヘンのおとぎ話は、想像の世界のことだから真実ではないと言う人がいるけれど、私はそうは思わない。なぜなら、私たちの善良さ、正直さ、誠実さ、勇気、夢は、この世界に本当に存在しているはずだからだ。まだそれを信じたいと思う人がいる限り、それは現実になる可能性を秘めている。

メルヘンの語源を調べてみると、それはドイツ語に始まり、ドイツ文学では子ども向きの物語だけではなく、幅広いジャンルの物語を含んでいる。メルヘンは、人をその物語に没頭させる幻想だ。そのなかですべてが真実のように思われるとしたら、それを読む人々の信念の力による。物語を書いている人の信念がなければ、物語は存在しないのではないだろうか。

メルヘンの話は、人々の幸せのために想像され、物語の種類によって、人々の内なる欲求を満たしてくれる。私の作品は、自分自身が望む幸せに感じられるようなメルヘンチックな空間を用意するために創られたものだ。その空間には空想が入り混んでおり、例えば、動物が人間のように服を着ているという子供時代の奇想天外な発想やファンタジーの要素を表現している。その「メルヘンの世界」で生きている子どもは、時間の流れを感じない。私も大人の忙しい現実から離れて、鳥のさえずりや自然の音が流れている場所で心を解放してみたい。

絵の中は、自然の生命力に満ちている。焦る気持ちを落ち着かせて、時間を忘れさせる安堵の雰囲気想像できるだろう。